

## 『論文を正しく読み書くためのやさしい統計学 改訂第2版』 正誤表3

このたびは上記書籍をご購入いただきまして誠に有難うございます。

本書(2010年9月30日印刷分, 2011年3月10日印刷分, 2012年7月30日印刷分, 2014年1月10日印刷分)に, 下記のような誤りがございました。また, 補足がございます。恐れ入りますが, 修正・変更を賜りますようお願い申し上げます。

### 1) 記載誤り

ここに訂正させていただきますとともに, 謹んでお詫び申し上げます。

箇所	誤	正
34 ページ 2 行目	…やカイ 2 乗検定を用いて割合 <u>を比較</u>	…やカイ 2 乗検定を用いて割合の <u>差</u> <u>を検定</u>
34 ページ 13 行目	…, 標本サイズが大きいと有意 <u>差</u> が出やすくなる	…, 標本サイズが大きいと有意な <u>結</u> <u>果</u> が出やすくなる
56 ページ 表の下 4 行 目	3) 実測値の組み合わせと, それ 以上に極端な (起こる確率の <u>少</u> <u>ない</u> )	3) 実測値の組み合わせと, それ以上 に極端な (起こる確率の <u>小さい</u> )
57 ページ セル A42	3) 実測値の組み合わせと, それ 以上に極端な (起こる確率の <u>少</u> <u>ない</u> )	3) 実測値の組み合わせと, それ以上 に極端な (起こる確率の <u>小さい</u> )
57 ページ セル A44	実測値の組み合わせ(3)と, それ 以上に起こる確率の <u>少ない</u> 組み 合わせ	実測値の組み合わせ(3)と, それ以上 に起こる確率の <u>小さい</u> 組み合わせ
69 ページ 5 行目	<u>y は生存時間である. x 変数は 1</u> <u>つでもよいが, ロジスティック</u> <u>回帰同様複数の変数が用いられ</u> <u>る.</u>	<u>重回帰分析において, y を連続変数で</u> <u>ある生存時間としたモデルが想定さ</u> <u>れるが, 実際のデータに適用するに</u> <u>はいくつかの問題がある. 生存時間</u> <u>のかわりに, 瞬間死亡率 (ハザード)</u> <u>を用いたモデルを想定する.</u>
94 ページ 下から 4 行目	…最初から <u><math>10^n</math></u> を乗じたものを	…最初から <u><math>1/10^n</math></u> を乗じたものを
99 ページ 下から 1 行目 1 番右の項	$10 \beta_{\underline{1}}$	$10 \beta_{\underline{3}}$

(つづく)

(つづき)

箇所	誤	正
100 ページ 7 行目	$\frac{p_1}{1-p_1}$ $\frac{p_0}{1-p}$	$\frac{p_1}{1-p_1}$ $\frac{p_0}{1-p_0}$ ※分母の $1-p$ が $1-p_0$ となります

## 2) 解説の追加

より理解いただきやすいよう、下記のように解説を追加いたします。

箇所	追加する解説
71 ページ 表 1-b 表の説明	非標準化係数は、回帰係数、つまり傾きに相当するものであるが、変数の単位に影響される。変数を平均 0、分散 1 に変換して標準化することによって、標準化係数を求めることができる。標準化係数は、-1 から 1 までの値をとる。標準化係数により、後述する重回帰分析のように変数が複数ある場合、変数間の比較が可能となる。

以上

2014 年 12 月 19 日 診断と治療社 編集部